

〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和 7 年度 地域学校協働本部事業

「復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業」協働活動推進研修

地域学校協働活動研修会相双地区研修

開催日	令和 7 年 7 月 1 日（火） 13:20~16:00
会 場	南相馬市鹿島生涯学習センター「万葉ふれあいセンター」
参加人数	32名（教職員2、行政職員10、子ども教室児童クラブ関係者20）
研修テーマ	まちづくりと地域学校協働活動
テーマ設定の理由	地域学校協働活動やCSを通して、「学校を核とした地域づくり」「まちづくり」という言葉を耳にすることが多くなった。そこで、「まちづくり」について社会学の視点から見つめ直し、日頃行っている地域学校協働活動の可能性を考察していきたい。

1 開 会

- (1) 開会の言葉
- (2) 主催者挨拶 所長 山本 秀和
- (3) 所連絡

2 講話及び研究協議

講話 「まちづくりと地域学校協働活動」

講師 福島大学 人間発達文化学類長 牧田 実 教授



I コミュニティとはなにか

- ： 地域性と共同性に基礎づけられた人間の集団
- 一定の地理的範囲で、
- 地域生活基盤を共有しつつ、
- 営まれる人間の共同生活

II まちづくりとはなにか

1 生活共同の論理

- ： 地域共同管理
- = 地域環境の維持・向上の日常的営為

2 パートナーシップの論理

- 1) 連携： 住民相互、市民団体相互のパートナーシップ
 - 2) 協働： 住民と自治体とのパートナーシップ
- 社会的サービスの提供
(生活者ニーズの充足=住民福祉の向上)
× 「コスト削減」「外注」「押しつけ」
「下請け」「丸投げ」



Ⅲ まちづくりの事例にまなぶ

1 経済的基盤：地域おこし

1) 特産品づくり

一村一品運動（大分県：80～）

ex. シイタケ、カボス、ハウスミカン、ゆず、豊後牛、関あじ、関さば、麦焼酎

2 地場産業

ex. 陶芸（栃木県益子町：益子焼）：陶器市、町並整備（観光開発）

3 商店街振興

ex. 谷中銀座商店街（東京都台東区）

4 観光

ex. 大分県湯布院町（現由布市）：非歓楽型温泉地の保全・整備

5 物的基盤景観保存：歴史的町並

ex. 京都の町屋 飛騨高山 妻籠宿（長野県南木曾町） 大内宿（福島県下郷町）

6 歴史的遺産の再生

ex. 柳川堀割（福岡柳川市） 小樽運河（北海道小樽市）

7 中心市街地の再生

ex. 黒壁スクエア（滋賀県長浜市）

8 文化的・社会的基盤コミュニティづくり

ex. 真野地区（神戸市長田区）

9 祭り・イベント

ex. 愛媛県双海町（現伊予市）：「しずむ夕日の立ち止まる町」



Ⅳ まちづくりと地域学校協働活動

1 効果・メリット

1) 子どもにとっての効果

① コミュニケーション能力の向上：多様な主体との交流

② 地域への理解・関心の深まり

2) 地域への効果

① 地域の教育力の向上と地域の活性化

② 地域住民の生きがいつくりと自己実現

③ 住民が地域子どもたちに関心を抱くことによる安全安心なまちづくりへの寄与

3) 学校・教員にとっての効果

① 授業や生徒指導などへの集中→多忙化の緩和

② 学校だけでは実施困難な体験活動

③ 住民の協力による子どもの校外指導 ex. 夜間パトロールによる補導件数の減少

④ 児童・生徒への理解の深まり



3 研究協議会・熟議

テーマ：地域学校協働活動はなぜ広がらないのか、どうしたら広がるのか

ゴール：相双地区のまちづくりの活性化へのアイデアを出す

4 閉会

【感想】参加者からは、以下のような感想が寄せられ、大変意義深い研修となった。

○難しい内容もありましたが、説明や例えがあり分かり易かったように思えました。

○ワークショップもいろいろな意見があり、よかったです。

○地域活動の進め方の難しさを感じているので、何か良い方策がないかなど考えています。これからは機会があれば参加したいです。

○震災後のまちづくりの事例や、相双地区の課題に沿ったまちづくりのアドバイスや具体例などが聞けるとなお良かったです。

○今日は放課後子ども教室を休みにして全員で参加しました。今後、今日いただいたお話とご縁を生かしていきたいと思います。

